

当院における個別糖尿病指導

両国東口クリニック

増田 慶子 ・ 渋谷 久美子
千葉 由紀子 ・ 渡部 敦子
関口 泰央 ・ 諸見里 仁
大山 博司 ・ 大山 恵子



目的

現在、糖尿病が透析導入患者の39%と増加しているにもかかわらず、透析導入後は透析についての指導が中心となり、糖尿病についての知識が低下しているように思われる。しかし、合併症予防の為に透析指導のみでなく、糖尿病の指導も重要であると考えた。

その為、当院では糖尿病患者を対象に指導パンフレットを作成し、理解度を考慮した個別指導を実施した。指導前後での理解度の変化をもとに、年齢、理解力にそった指導方法、指導パンフレットの有用性を評価、検討したので報告する。



方法

当院の糖尿病患者6名(男性5名、女性1名)を対象に指導を行った。指導に使ったパンフレットは、絵を多くする、文字を最小限にするなどを考慮し、当院独自のものを作成した。また、パンフレットと同様の拡大パネルも使用し、パンフレットのみでの指導が難しい患者にはビデオを併用したり、必要時には家族への指導を行った。

これらの指導による理解度を評価する為、指導前後でチェックリストを行った。このチェックリストは覚えて欲しい事項を項目ごとにあげ、理解のレベルを点数化するという、当院独自のものである。



症例 1

A氏 男性 61歳 妻と二人暮らし(長男、長女の4人家族)

透析導入歴:1年6ヶ月

糖尿病歴:約30年前口渇強く、近医受診し糖尿病と診断される。その後は定期受診し薬物療法行っていたが、糖尿病に関しての指導は受けていなかった。

糖尿病治療:内服、インシュリンなし。眼底出血ありレーザー治療施行。

HbA1c:5.5~5.8(%) BS:61~241(mg/dl)

< 指導前 >

- ・指導前のチェックリストの点数は低かったが、指導に対しては意欲的

< 指導中 >

- ・透析前の空いている時間を使って指導を行った。一生懸命覚えようとするが、なかなか覚えられず、繰り返し指導を行った。
- ・視力が低い事もあり、パネルのパンフレットを使用した。
- ・期間中、妻にも指導して欲しいと希望あり、非透析日に本人、妻とで指導をうけた。

< 指導後 >

- ・まだ指導が必要であるが、血糖値、HbA1cなど答えられるようになった



症例 2

F氏 女性 83歳 夫、次女と3人暮らし

透析導入歴:1年11ヶ月

糖尿病歴:21年前糖尿病指摘され外来通院。ヘイスン内服、食事療法行っていた。約2年前脳梗塞、糖尿病性壊疽にて入院。

糖尿病治療:現在イルットN24単位 朝 施行

HbA1c:6.5~8.2(%) BS:120~230(mg/dl)

< 指導前 >

- ・空腹時血糖、低血糖症状、インスリンの皮下注部位以外は知識なし。

< 指導中 >

- ・透析後の食事中に何度か指導を行なった。
- ・次女より「以前に比べ本人の調子は少し良くなってきているし、年齢の事もあって厳しい食事制限などは避けたい」と希望あり、次女と相談し、以前壊疽を起こしたことがある為、フットケアを中心に指導を行った。本人もフットケアに対して興味あり。

< 指導後 >

- ・毎日足の観察を行うようになった。



症例 3

B氏 男性 57歳 一人暮らし

透析導入歴:7ヶ月 糖尿病歴:20年前に糖尿病と診断されるも放置。

糖尿病治療:内服、インシュリンなし

HbA1c:4.3~5.6(%) BS:154~217(mg/dl)

< 指導前 >

- ・三大合併症以外は知識なし。20年間放置した事に対しても無関心。

< 指導中 >

- ・最初は説明を聞くが後半になると集中力が低下する為、パンフレットだけの指導は難しく、指導ビデオを併用した。
- ・時間をかけて指導する為、透析後別室にて指導を行った。
- ・どうしても指導を受けたくない日は患者の気持ちを優先し、その日は指導を見送った。

< 指導後 >

- ・今後も指導は必要であるが、HbA1cや食事に関する質問に答えられるようになってきている。



理解度前後比較

点数
120

100

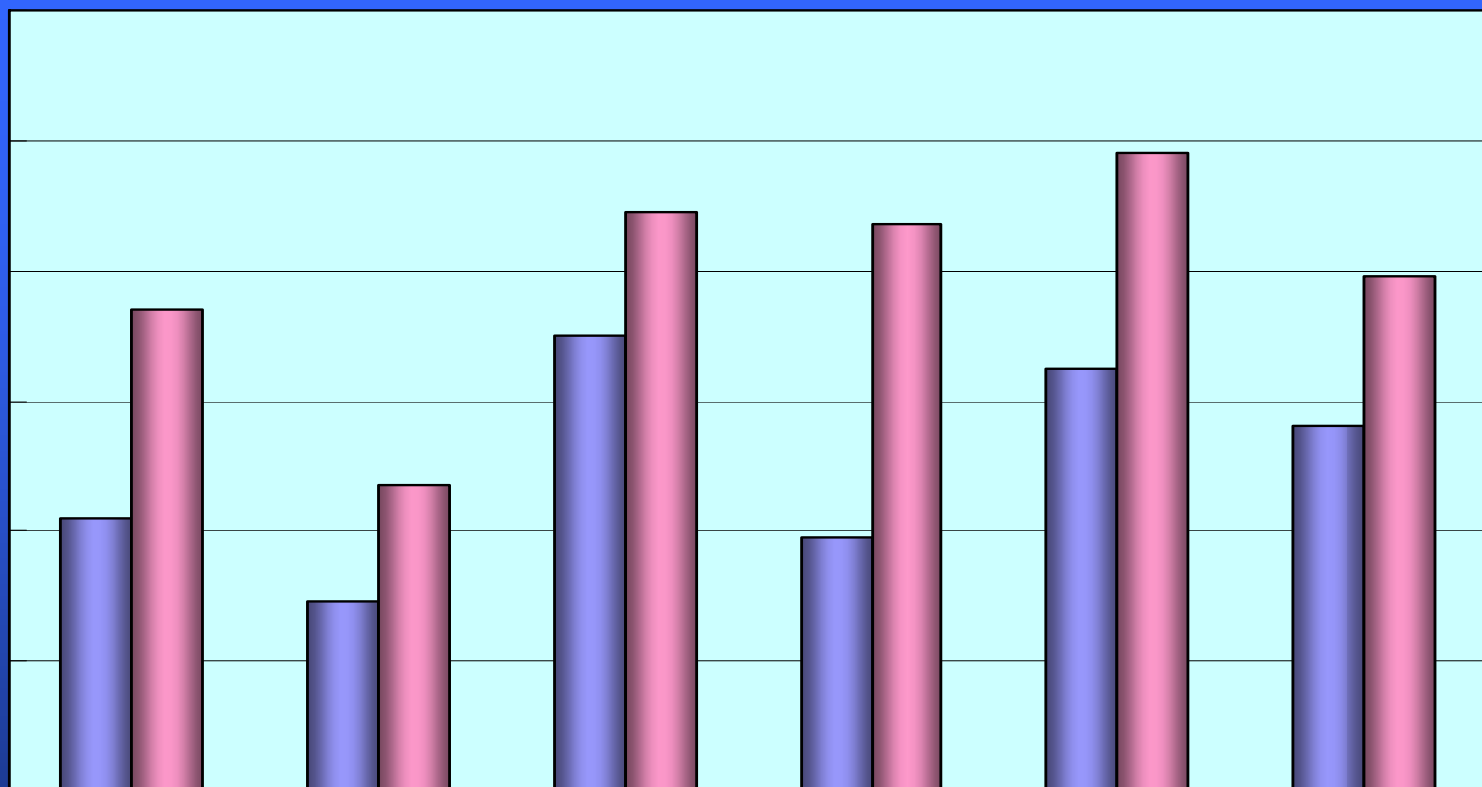
80

60

40

20

0



A

B

C

D

E

F

■ 前

42

29

70

39

65

56

■ 後

74

47

89

87

98

79



< 指導やパンフレットに対しての患者・家族の意見 >

- 1、パンフレットをパネルにして見やすかった。
- 2、パンフレットに絵が多く含まれていてわかりやすかった。
- 3、今後も指導を続けて欲しい。
- 4、指導のペースが早くて、すぐには覚えられない。
- 5、透析中の指導は集中できない。
- 6、本人が高齢なので無理に指導はしなくてもいい
(家族より)
- 7、家族を含めた指導をもっとして欲しい。



考察

今回、糖尿病指導パンフレットを作成する上で、絵を多くした事、見やすくする為拡大パネルのパンフレットも作成した事が、指導に対する患者の抵抗を和らげたのではないかと考える。また、パンフレットをもとに指導を行い、それぞれの患者に合わせるように指導方法を選択した事も理解度のアップに繋がったと言える。しかし、患者の意見からもわかるように、一方的な指導になってしまった点や指導の時間、場所など検討し、今後の指導に繋げていきたいと考える。

